

氷見の持続可能な 定置網漁業システム



氷見の
定置網
日本農業遺産

日本農業遺産
令和3年2月認定

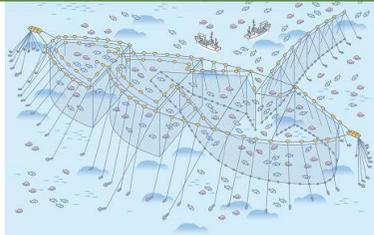


富山県氷見地域



資源や環境にやさしい氷見の定置網漁業は、400年以上前から農林業や地域の文化、経済、信仰、祭礼などと深く関わりながら、地域の基幹産業として地域を支えています。

地域を支える定置網漁業



網の入口が常に開いており、入った魚の3割程しか取らないことから、定置網漁業は海洋資源の保護につながる環境にやさしい漁業です。



漁港から定置網が敷設された漁場までが近く、沖合で取れた魚をすぐ水氷で締めることで、魚が新鮮な状態で出荷されています。

定置網漁業システム



伝統的な祭礼



五穀豊穡や大漁、安全などを祈願するため、市内各地で獅子舞が行われています。

農林業とのつながり



山々や水田、沿岸部の「魚つき保安林」から流れ出る雨水や雪解け水は、栄養塩類を海にもたらし、豊かな漁場を育てています。

日本農業遺産認定による効果

農業生物多様性の保全

農業生物多様性の保全の取組み

- ・イタセンパラの保護と保全の推進
- ・イタセンパラ等を活用した
アクアツーリズムによる環境保全
- ・十二町瀉オニバスの自生回復への取組み
- ・氷見沿岸域の生物多様性の保全に向けた活動



▲国の天然記念物「イタセンパラ」
(左:メス、右:オス)

- 保護池でのイタセンパラの繁殖個体数:2,000個体/年(R2)→**2,000個体/年を維持**(R5)
- アクアツーリズム参加者数:実績無し(R2)→**35人/年**(R5)
- 十二町瀉オニバス発生地でのオニバスの自生:実績無し(R2)
→**発生地**で**2株自生(種子からの発芽・開花)**(R5)
- 藻場の環境保全活動の回数:4回/年(R2)→**17回/年**(R5)

ランドスケープの保全

ランドスケープの保全と活用

- ・棚田地域の環境保全活動
- ・各集落の棚田保全・活用
- 長坂地区で田植えや稲刈りなどの農作業を体験する「棚田オーナー事業」を、細越地区では種まきや刈取りなどの農作業を体験する「ハトムギオーナー事業」を実施
- ・林業を担う人材の育成・確保



▲日本の棚田百選に認定された「長坂の棚田」



▲棚田オーナーによる田植え

- 棚田地域での独自の取組件数:1件/年(R2)→**4件/年**(R5)
- ハトムギオーナー数:中止(R2)→**19人/年**(R5)
- 棚田オーナー数:22人/年(R2)→**45人/年**(R5)
- 各種林業体験への参加者数:105人/年(R2)→**135人/年**(R5)

次世代への継承

定置網漁業の普及と次世代への継承

- ・定置網漁業の市内外への普及
- ・定置網漁業の海外への普及
- ・農業遺産関連スポットを巡るツアーの開催
- ・氷見地域日本農業遺産をマンガで紹介する冊子
「定置網漁業は 氷見の宝物」の制作



▲外国人実習生の受入れ



▲冊子「定置網漁業は氷見の宝物」

- 氷見市漁業文化交流センター年間入館者数:20,067人(R2)→**65,029人**(R5)
- 氷見市立博物館年間入館者数:4,794人(R2)→**9,152人**(R5)
- 外国人技能実習生受入人数:6人/年(R2)→**12人/年**(R5)

文化、価値観

郷土愛の醸成と食文化の継承

- ・ふるさと教育による郷土愛の醸成
- ・食育の推進
- 保育園や小学校で、氷見産の食材を使った料理教室を実施
- ・食に関するイベントの開催
- 「ひみ食彩まつり」、「ひみぶりフェア」、「氷見三昧」などのイベントを開催により食文化を発信



▲魚のさばき方を学ぶ料理教室



▲郷土料理「ぶり大根」

- 氷見が好きだと感じている市民の割合:83.4%(R2)→**85.0%**(R5)
- 氷見の食文化に関する料理教室などの開催数:19回/年(R2)→**23回/年**(R5)
- 食に関するイベントの開催数:3回/年(R2)→**3回/年**(R5)